

【矢巾町商工会】経営発達支援事業 評価シート

＜評価基準＞  
 A:目標を達成することができた(100%以上)  
 B:目標を概ね達成することができた(80~99%)  
 C:目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)  
 D:目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)  
 E:未実施(0%)

I. 経営発達支援事業の内容

事業	項目	令和2年度		実績	評価				令和3年度
		目標	実績		2年度	元年度	30年度	29年度	目標
1. 地域の経済動向調査【指針③】	(1)行政との情報交換会議	4回	8回	商工担当である産業観光課と連携を密にし、コロナ支援策や町内事業者の動向について情報共有を図りながら、今後の支援策等について定期的に意見交換の場を設けた。また、矢巾町議会建設常任委員会とは、商工業者への支援のあり方等について情報交換会を開催した。	A	A	D	C	4回
	(2)金融機関との情報交換会	2回	2回	4行及び日本政策金融公庫と地域内小規模事業者の動向(創業状況を含む)や空き店舗・土地等の利活用状況の情報収集及び共有を行った。また、各金融機関とは個々に情報共有を図りながら創業者への支援を図った。	A	A	A	A	2回
	(3)矢巾町企業連絡会との連携による情報収集	1回 (部会3回)	2回	企業連絡会の事務局と地域内動向について情報収集及び共有を行った。さらに、矢幅駅前屋台村の運営をするヤハバックス㈱との情報交換会を行い市場ニーズ等の共有を図った。	A	A	B	B	1回 (部会3回)
	(4)行政と連携した通行量及び空き店舗の各調査	2回	1回	岩手医科大学附属病院開院後に中心市街地や駅西の通行量(継続実施)を調査し、今後の地域活性化のための基礎データを収集した。元年度から行政と協議の上、年1回の計画で実施した。	A	A	C	C	2回
2. 経営状況の分析【指針①】	(1)経営分析の対象となる小規模事業者への巡回訪問による意向把握	200件	376件	コロナ感染症の影響による現状の経営状況や課題等の把握を行うとともに、各種補助金等の周知を行い、事業計画策定の意思を把握した。計画では巡回を主にしてしたが、新型コロナウイルスの影響により窓口対応も件数に含めている。(窓口148件)	A	A	A	C	200件
	(2)ヒアリング等を活用した経営実態の把握・分析	200件	220件	上記項目時にヒアリングし、各事業所の経営実態を把握した。	A	A	C	C	200件
	(3)収集した情報による経営分析の実施及び活用	100件	122件	貸借対照表の必要性、簡易財務分析を行うとともに、資金調達を希望する事業者に対しては、売上・原価率・自己資本比率・返済力についての資料作成を行った。	A	A	A	C	100件
	(4)経営分析セミナーによる自己分析能力の向上支援	1回	1回	ネットde記帳利用者(代行及び自計の両者)等を対象にセミナーを1回開催。(10月)セミナー終了後、個社支援により対応した。(8件)	A	A	A	E	1回
3. 事業計画策定支援【指針②】	(1)巡回・窓口相談時の事業計画策定意識づけ	120件	110件	巡回及び窓口対応時、商工会ニュース等による各種補助金等の周知を行い、事業計画策定の意思を把握した。事業計画策定16件、補助金活用事業計画策定57件、融資活用資金計画策定37件の支援を行った。	B	B	A	A	150件
	(2)経営力向上・経営計画策定セミナー	2回 (支援数50件)	5回 (支援数46件)	専門家を活用して集団5回(67名うち、43名策定)、個別2回(8名うち3名策定)のセミナーを開催し、経営計画の策定を支援した。	A	A	A	A	2回 (70件)
	(3)創業支援セミナー	1回	1回	セミナーは開催しなかったが、個社支援により事業計画策定(12件)を行った。その結果、12件の創業につながった。	A	A	A	A	1回
	(4)事業継承・後継者育成個別相談	4回	10回	個別相談会の開催はしなかったが、巡回により対象事業所の調査(20件)及び実現に向けた計画策定(10件)を行った。	A	A	A	D	4回
	(5)財務諸表の理解度向上セミナー	1回	1回	ネットde記帳利用者(代行及び自計の両者)等を対象にセミナーを1回開催(8名)。個別対応としての支援は、確定申告時期の税務支援の中で行った。(122名)	A	A	A	D	1回
	(6)事業マッチング機会の場	2回	3回	特産品協会(10事業所)により県内への販路開拓事業を実施し、内部会議等でマーケティング戦略等について学ぶ機会を提供した。	A	A	A	C	2回
4. 事業計画策定後の実施支援【指針②】	(1)事業計画策定フォロー及びフォロー回数	50件 (200回)	110件 (507回)	①事業計画策定後の巡回・窓口での支援を行った。フォロー方法としては、主に巡回(頻度 約3ヶ月に1回)を中心に行い、案件によっては専門家を活用したり、日本政策金融公庫や地元金融機関と連携をするなど、的確な支援を行った。 ②創業者に対しては、計画的な経営を可能とするために計画書の策定支援を行った。また、出店場所を見つける際には、町内不動産業者及び町内金融機関と連携し町内での創業が実現できるように支援を行った。(3社) ③事業マッチング実現に向けた事業計画書の見直し案件は、前項でも明記したとおり、マッチングまでには至っていなかったことから、作成実績は0件となった。	A	A	B	A	50件 (200回)
	(2)経営革新認定事業者数	6件	1件	経営革新認定は1件であった。	D	C	A	D	6件
	(3)持続化補助金等申請支援者数	30件	45件	経営計画策定事業者数の内、販路開拓に向けた補助金申請支援(45件)を行った。3件は盛岡商工会議所管轄の会員事業所であったが、フォローまで本会で支援した。	A	B	C	D	30件
	(4)小規模事業者経営発達融資制度申請者数	1件	0件	周知により利用を促したが利用者0名。金利の面からマル経資金の活用であった。	D	D	D	D	1件
5. 需要動向調査【指針③】	(1)矢幅駅前地区の商業集積に本店予定小規模事業者に対する需要動向調査	-	1回	矢幅駅前屋台村への本店予定者に対する動向調査として矢巾町と連携し、駅利用者数及び周辺施設の利用客の客層などについて市場調査を行った。町との通行量調査を実施。	A	A	D	E	1回
	(2)山ぶどうの加工品などに関する需要の拡大に係る調査	12回 (5件)	6回 (16件)	特産の一つである山ぶどうを活用した商品のPRのための場の提供は、物産展等に出展(2回)した。また、特産品協会では、県内(4回)の物産展等に出展した。その際に、来訪者を対象に調査(アンケート)を実施した。(調査サンプル数100枚)コロナ禍であったため、当初計画していた物産展はすべて中止となった。	C	A	B	C	15回 (5件 300~500)
	(3)外部機関から入手する情報	6回 (50件)	6回 (60件)	部会やまちづくり会社を対象としたセミナー等において、POSデータ等の外部データを入手し、情報提供を行った。	A	A	A	A	6回 (50件)
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業【指針④】	(1)全国連SHIFTの活用	50件 (5件)	0件 (0件)	SHIFTが令和2年3月末で運用が終了するため、グーペへの活用を商工会ニュース(毎月1回発行)等で行ったが2件の掲載であった。	D	D	C	E	50件 (5件)
	(2)地元農産物を活用した特産品の普及拡大	-	-	春まつりや秋まつりの場で町と連携して普及拡大に努めた。	-	-	D	D	-
	(3)既存・新たな特産品普及拡大	2回 (20件)	4回 (14件)	既存商品の販路拡大を目的に盛岡広域振興局主催の物産展に参加するとともに、矢幅駅利用者への周知を図ることを目的に屋台村感謝祭に出店し特産品周知と自社商品のニーズ把握を行った。県外への販路拡大支援は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	A	A	C	D	2回 (20件)

【矢巾町商工会】経営発達支援事業 評価シート

《評価基準》  
 A:目標を達成することができた(100%以上)  
 B:目標を概ね達成することができた(80~99%)  
 C:目標を半分程度しか達成することができなかった(30~79%)  
 D:目標をほとんど達成することができなかった(30%未満)  
 E:未実施(0%)

II. 地域経済の活性化に資する取組

事業	項目	令和2年度		実績	評価				令和3年度
		目標	実績		2年度	元年度	30年度	29年度	目標
1. 地域経済活性化事業	(1) イベントの連携実施	1回	1回	コロナ禍のため当初計画していたイベントはすべて中止となった。しかし、感染防止を行った上で、10月11日に「や市」を開催し、地域貢献はもとより、小規模事業者に対して販売機会を提供することができた。	A	A	A	A	1回
	(2) 地域賑わい創出事業	4回	4回	コロナ禍のため当初計画していた事業はすべて中止となった。しかし、屋台村を中心としたイベント実施、町内飲食店の支援として飲食店応援プロジェクト事業「YAH Aeat」(2回)、冬期イベントとして「YAH Aあかり」事業を実施し、駅周辺の小規模事業者も巻き込み地域の賑わい創出を行った。	A	C	C	C	4回
	(3) 矢巾町プレミアム商品券発行事業	1回	0回	矢巾町と協議の上、今後も実施しない意向である。	E	A	E	E	1回

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

事業	項目	令和2年度		実績	評価				令和3年度
		目標	実績		2年度	元年度	30年度	29年度	目標
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換	(1) 商工団体・商工会議所との情報交換	2回	2回	小規模事業経営改善貸付協議会の場を活用して、他地域の既存小規模事業者の動向、創業・事業承継及び指導案件事例についての情報収集・共有を行った。	A	A	A	A	2回
	(2) 関係支援機関への定期的訪問	4回	2回	関係支援機関ではなく、個社支援の際は専門家派遣事業を活用し対応した。コロナ支援策である各種補助金等の申請窓口となったため、他商工会の他に盛岡商工会議所等と情報共有をしながら、補助金等のノウハウについて情報共有して小規模事業者支援に活用した。	C	C	C	C	4回
	(3) 金融機関との情報交換	12回(公庫) 2回(銀行)	2回(公庫) 1回(銀行)	コロナ禍であったことから、公庫による金融特別相談会(毎月第3水曜日)は中止となった。地元4行との情報交換会の場で小規模事業者の現状の情報収集や、資金調達に関するノウハウ等について情報共有し、小規模事業者の支援に役立てた。	C	A	A	A	12回(公庫) 2回(銀行)
	(4) まちづくり会社との情報交換及び連携	4回	4回	まちづくり会社であるヤハハックス㈱と矢幅駅前活性化についての情報交換(3回)及び複合施設やはばーくとのコロナ禍での事業展開等について情報交換(1回)を行い、中心市街地の活性化に努めた。	A	A	A	A	4回
2. 経営指導員等の資質向上等	(1) 岩手県商工会連合会研修	-	-	全職員を対象に、岩手県商工会連合会の職員向けセミナー、中小企業基盤整備機構の各種セミナー等の参加を通じて資質向上に取り組んだ。	A	A	A	A	-
	(2) 職員会議	12回	12回	毎月1回(月初)、職員会議を開催し、個々が抱える課題の共有と解決策の検討を行い、事業遂行の円滑化を図った。さらにコロナ禍における商工業者への支援策を模索し事業実施につながった。	A	A	B	B	12回
	(3) OJTの強化による能力向上	随時	随時	全職員に新たな業務を経験させ、オールラウンドプレーヤーに育成するために事務分掌の見直しを図るとともに、新たな業務や高度な案件については、指導員が中心となって支援して能力向上の実現に努めた。	A	A	C	C	随時
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組み	(2) 専門家派遣同行による能力向上	20回	13回	高度な案件に対して派遣した専門家と同行して、新たな知識の習得や指導手法を学び能力向上に努めた。また、土業の方々と連携し、相談案件に対して迅速に対応した。	B	B	A	B	20回
	(1) 各種事業(セミナー及び研修会等)におけるアンケートの実施による事業検証	随時	10回	商工会の発達計画担当者により令和元年度の結果から令和2年度の目標の見直し、事務局や三役会において、進捗状況の確認及び事業内容の検証を行った。	A	A	B	B	随時
	(2) 事務局事業評価会議	2回	1回		A	A	C	C	2回
	(3) 矢巾町商工会あり方検討委員会での事業実施状況・見直しの検証	1回	1回		A	A	A	A	1回
	(4) 本会三役会における評価・見直しの検証	2回	3回	A	A	A	A	2回	
	(5) 会員への報告	1回	1回	次年度(令和3年)の総会終了後、会員等に報告する。(令和3年7月発行の会報で周知予定)	A	A	B	-	1回
(6) 事業結果の公表	随時	1回	A		A	B	-	随時	

総合評価
B